

温室効果ガス排出量 検証報告書

2025 年 7 月 31 日

キューピー株式会社 御中

一般社団法人日本能率協会
サステナビリティセンター
上級経営管理者 前田 雅彦



1. 検証の対象及び目的

キューピー株式会社（以下「事業者」という。）が作成した算定対象^{※1}における温室効果ガス（GHG）排出量算定結果「2024 年度算定報告書」（以下「算定報告書」という。）に記載の 2024 年度（国内拠点は 2023 年 12 月 1 日から 2024 年 11 月 30 日まで、海外拠点は 2023 年 10 月 1 日から 2024 年 9 月 30 日まで）の以下の GHG 排出量情報に関して、事業者は、一般社団法人日本能率協会 サステナビリティセンター（以下「当協会」という。）に対し、限定的保証を目的とした検証を依頼した。

1) スコープ 1 GHG 排出量

算定対象における都市ガス、LPG、A 重油、LNG、灯油、軽油の使用に伴って直接的に排出される CO₂ 排出量

2) スコープ 2 GHG 排出量

算定対象における電力、熱の使用に伴って間接的に排出される CO₂ 排出量

3) スコープ 3 GHG 排出量

事業者の事業活動におけるスコープ 3 カテゴリ 1, 2^{※2}において排出される CO₂ 排出量

検証の目的は、事業者の GHG 排出量情報が算定方法^{※3}に従って、正確に測定、算出されているかについて、独立の立場から結論を表明することである。算定報告書を作成し GHG 排出量情報を報告する責任は事業者にあり、当協会の責任は、独立の立場から算定報告書に記載された GHG 排出量情報に対する結論を表明することにある。

2. 検証手続き

当協会は、ISO14064-3:2019 (Greenhouse gases - Part 3: Specification with guidance for the verification and validation of greenhouse gas statements)の要求事項に従って GHG 排出量情報の検証を実施し、以下の事項を実施した。

- 算定報告書に記載の GHG 排出量を決定するために用いられた情報に関する算定方法、排出量算定システム、及び、関連資料の確認を事業者の本社訪問を含め実施
- 算定報告書の作成に関わる主な担当者へのインタビュー
- キューピータマゴ(株) 筑波工場、アヲハタ(株) ジャム工場／竹原工場への訪問による供給されたエネルギーのモニタリングポイントの現場視察、算定担当者へのインタビューによる算定対象、算定データ、データ収集手順の確認
- GHG 排出量情報の正確性を確認するためのサンプリングによる根拠となる資料の確認

3. 検証の結論

算定報告書に記載された GHG 排出量情報は、算定方法に従って、すべての重要な点において正確に測定、算出されていないと認められるような事項は発見されなかった。

検証された温室効果ガス排出量 (t-CO ₂ e)	
スコープ 1	54,477
スコープ 2 (基礎排出係数) ※4	107,815
スコープ 3 ※5	1,385,444
スコープ 3 内訳	
カテゴリ 1	1,337,010
カテゴリ 2	48,434

NOTE:

※1：算定対象

日本国内における、キューピー(株)の各拠点、子会社 14 社の生産拠点、
アヲハタ(株)本社、深谷ベジタブルコミュニケーション(株)、(株)芝製作所（スコープ 3 カテゴリ 2 のみ）、
及び、海外子会社の生産拠点（合計 105 拠点）

※2：スコープ 3 の各カテゴリの概要

- カテゴリ 1（購入した製品・サービス）：購入した製品、サービスを対象
- カテゴリ 2（資本財）：購入、建設した固定資産を対象

※3：スコープ 1, 2, 3 の算定方法

「サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量算定に関する基本ガイドライン（ver.2.7）」、スコープ 3 に
関しては、CO₂ 排出量算定システム C-Turtle®に内包される排出係数、及び事業者が作成した「算定手順」

※4：算定には、J-クレジット制度に基づく再生可能エネルギー（熱）のクレジット償却分の控除を含む

海外の排出係数は、原則国別（または、グリッド別）のロケーション基準に基づく

※5：スコープ 3 の値 (t-CO₂e) は各カテゴリの小数点以下も含めた t-CO₂e の合計値

以上